

夢は世界一の青ネギ農家

夫婦で力を合わせて祖父の味に挑戦

たかまつ よしたか

高松 芳孝

(36歳)

磯城郡田原本町



高松さんの青ネギ畑

祖父が育てたネギが 転機をもたらした

田原本町で青ネギのハウス栽培を手がけている高松芳孝さんと妻の明恵さん。奈良県認定エコファーマーとして、30棟のハウスで27年度は約70tを出荷、28年度は約80tの出荷を見込んでいる。学校を卒業して一旦はサラリーマンの道を選んだ芳孝さんだが、専業農家として様々な野菜を栽培していた祖父の青ネギが人生を変えた。

ラーメンに祖父の青ネギを入れたら、その青ネギがとてもおいしかった。何かがひらめくように、農業をやろうと思った瞬間だった。23歳、次男が生まれるという頃だった。「同じ夢を一緒に追いかけてほしいと、会社を辞める決断をしました。安定した収入を得ることができると不安はありましたが、自分で決めたことなら後悔はしないだろうと背中を押しました」と、明恵さんは振り返る。

祖母は自分が苦労をしたこともあって、最初は孫の就農に反対したものの、芳孝さんの一生懸命な姿を見ていつしか応援者に。祖父から農業を一から教わり、

明恵さんも一緒に、生まれた赤ん坊を交代でおんぶして夫婦で畑作業をする日々が始まった。

選択と集中の経営で ネギ一本に決める

就農当初は、アスパラガスと青ネギの二本立てで生産を行っていた。しかし、時間と人手がかかり、どちらも栽培に滞りが発生するようになってしまった。効率の悪さが経営に影響を与える前に、青ネギ一本でやっという決断をした。それが5年前のこと。「祖父の青ネギの味を目指して頑張る」という決断だった。

青ネギは農業無しでは安定生産が難しい作物だが、安心な農作物への取り組みから農薬の使用回数は奈良県認定エコ



夫婦で収穫作業に取り組む高松夫妻



収穫した、高松さんの青ネギ

ファーマー基準の2分の1以下に抑えている。さらに化学肥料は使用していない。それまでは露地栽培もしていたが、

青ネギの品質を上げるために、天候に左右されず品質管理と安定供給が可能なハウス栽培に切り替えた。まずは土づくりからと、専門書を読み、他府県を訪問しているような青ネギ栽培者にアドバイスをもらい、試行錯誤が続く。どうしても発育が悪いハウスは、奈良県の出先機関である「中部農林振興事務所」に相談し、土壌検査に来てもらって具体的な指導を受けることができた。口数の少ない芳孝さんだが「ネギのことになると積極的。だからあだ名はネギ職人」と、明恵さん。

行きついたのは、自然界に存在するものを使うこと。具体的には、微生物の働きを生かした土づくりだった。しかし作物の生育に有用な微生物が含まれている「微生物資材」は高価なため、自分で微生物を培養しよう考えた。そこで、まずは有用な微生物の一種、光合成細菌の培養から取り組み始めた。実際に光合成細菌を培養している農家からアドバイスを

受け、培養に適した環境を整え、必要な資材などを購入し、24時間体制で管理を続けている。こうすることで、高松農園の土作りに必要な量の光合成細菌を確保している。

土作りに関する様々な書籍を読み込み、受けたアドバイスを参考に試行錯誤するうちに、土壌改良の成果は目に見えて現れ、畝が必要だった畑の土がやわらかくなってきた。

さらに、粕殻を発酵させて作る粕殻発酵堆肥も活用。これらの結果、肥料を使用しなくても土中にできた肥料成分を吸い上げた青ネギは生命力が強くなり、カビ等による病気が出ても自然に回復したほどだ。

ハウスに入ると、まるで砂浜のように土がやわらかい。ピンと姿勢よく立っている青ネギは、軽く引つ張るだけで抜けるが、根がとても長く、しっかりと根をはっていることがわかる。みずみずしい青ネギをそのまま口に入れると、予想外の甘みが広がった。辛みが少なく旨みを含んだ高松農園のネギは高く評価され、青ネギ一本に品目を絞ってから2年ほどで売上が伸び、現在も増え続けている。

白ネギ文化の関東へも 販路を広げたい

芳孝さんは生産に集中し、販路開拓

PR、商談、事務作業はすべて明恵さんの担当だ。最も厳しい顔を見せるのは、出荷責任者としての顔。品質にブレがあると、原因追求や問題解消に向けて夫婦で取り組む。

明恵さん自身も挑戦を続けている。農水省の女性農業者の勉強会に参加し、今年の3月に千葉で開催された「FOOD EX JAPAN 2016」に出展した。芳孝さんと共に新たな引き合いに手応えを感じ、白ネギ文化の関東へ進出したいと夢が広がった。さらに、利用者の声が直接聞ける個別販売もしたいと意欲をもやす。

味や品質が良いことが取引先から高く評価されているが、まだ祖父の青ネギの味を再現できていない。「世界一の青ネギ農家になる」目標を忘れないように、壁に掲げて夫婦で力を合わせる毎日だ。



自慢の青ネギを前に、思いを語る高松夫妻